

4月からのよきスタートに向けて 好調な始動！

3月に入ってから、朝、6年生が生き生きと活動している姿をよく目にしています。挨拶運動への参加や校内の整備活動などです。聞けば卒業に向けてのボランティア活動とのこと。でも、その表情がまたうれしい。どの子も明るい表情でどこか楽しそうで「やらされている感」が全くなく、見ていてとても気持ちが良くなります。「いよいよだね。」と声を掛けると、これまたいい表情で「はいっ。」と答えます。「いい終わり方」に向けて主体的に取り組んでおり、卒業に向けて心身ともに整えられていることがよく分かります。4月からのよきスタートに確実につながる姿だと実感しています。

6年生に限らず、どの学年の子供たちも進級に向けて意義ある3学期を送ってきました。そのシメとなる学級イベントが、最近では毎日のように運動場で開かれています。歓喜あふれる子供たちの声が学校全体に響き渡っていて、学校そのものも活気づいています。朝の挨拶にもその気持ちに乗っているようで、みんな4月が待ち遠しいようです。

3年間 ありがとうございました

私はこの春、退職を迎え、37年の教職生活を終えようとしております。その最後がこの赤佐小の校長であったことに感謝の思いでいっぱいです。特に新型コロナウイルスによる感染症対策に追われた令和3年度と4年度でしたが運動会や学習発表会、始業式・終業式、集いなど、他校以上に全校が集まる機会を積極的に設けて実施させていただきました。150周年記念式典もしかりです。このように実施ができたのも、いつも温かく学校を見守り支え続けてくださった保護者の皆様、地域の方々がいてくださったからこそと確信しています。赤佐小でなければできなかつた。本当に、ありがとうございました。

来年度も赤佐小学校は、「あかるいあいさつ かがやく笑顔の さくらっ子」の合言葉を子供・職員・保護者・地域と共有しながら教育活動に取り組んでまいります。3年間、過分なる学校への御理解と御協力、誠にありがとうございました。

今日いただいた2年生の女の子からの手紙に「朝は旗振りに来てくれてありがとうございます。校長先生がいなくなっても輝く笑顔のさくらっ子でいますね。」と書かれていました。学校が目指す方向が分かっている意識しているんだと、来年度への期待がより高まった瞬間でもありました。子供たちにも感謝、感謝です。 校長 松本 孝久

10年後にきっと

10年後にきっと

「せめて10年でもいいから
戻ってやり直したい」
と思っているだろう

今、やり直せよ、未来を

10年後か

20年後か

50年後から

戻ってきたんだよ、今

30代の頃、他校に授業参観に行ったとき6年生の教室の背面に掲げられていた言葉。ものすごく心に刺さったことを覚えている。その時、自分も6年の担任。すぐにメモに取り、学校に戻るとこの言葉を子供たちに紹介した。ただ、この言葉をきっかけに、自分の中で一番変わったことは、我が子に対する接し方だったことも鮮明に覚えている。考え方次第であるが、10年後あるいは20年後の自分と対話をし「今」を見つめることには、大きな意味があったと思っている。

しかし、60を迎えている今、この言葉が別の意味で心に迫ってくる。というのも70歳、80歳になった自分が、「お前、それでいいの？」と、問いかけてくるようで。もちろん、年齢的にも今だからこそやっておくべきこと、できることがたくさんあるはずだから。（当たり前だが、今が一番若いのである。）

以前、北野武が「歳をとったから遊ばなくなったのではない。遊ばなくなったから歳をとったのだ。」と言っていた。この言葉にかなり共感している私は、これからも今以上に遊ぶことに躊躇せず、これまでのように「まず楽しむ」を優先させながら今後の人生を歩んでいきたいと思う。 (完)

※長らく、トピックスにお付き合いいただきありがとうございました。